

令和5年度 弥富市財務4表の概要

弥富市は平成28年度決算分から団体間の比較可能性や客観性の観点に基づき国から示された「統一モデル」により財務書類を作成しています。財務書類は、ストック情報(資産・負債・純資産の期末残高)を表す「①貸借対照表(バランスシート)」、フロー情報(期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動)を表す「②行政コスト計算書」、「③純資産変動計算書」及び「④資金収支計算書」の4つで構成されています。

弥富市における財務書類の作成範囲は一般会計等を基本として、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計の3つの特別会計と下水道事業会計を加えた全体会計、さらに全体会計に海部南部水道企業団など8つの関連団体を加えた連結会計となります。

①貸借対照表

貸借対照表は、基準日時点における財政状態(資産、負債及び純資産の残高)を表すものです。

資産は将来の収益を生み出すために保有する財産を、負債は将来の世代が返済する債務を、純資産はこれまでの世代によって獲得された余剰(又は欠損)の蓄積残高を表しています。

(単位: 百万円)

借方	一般会計等	全体会計	連結会計	貸方	一般会計等	全体会計	連結会計
【資産の部】				【負債の部】			
有形固定資産	67,176	85,514	95,831	固定負債	16,546	33,128	37,531
事業用資産	40,404	40,404	42,210	地方債等	14,378	22,710	23,923
インフラ資産	26,347	44,063	51,721	退職手当引当金	2,167	2,167	2,867
物品	425	1,047	1,899	その他	-	8,251	10,741
無形固定資産	105	881	885	流動負債	1,624	2,096	2,485
投資及び出資金	111	11	11	1年内償還予定地方債等	1,171	1,537	1,620
基金	2,965	3,276	4,599	未払金	0	89	334
未収金等	179	573	781	賞与等引当金	283	287	333
現金預金	834	1,062	2,148	前受金・預り金	160	160	161
棚卸資産	-	-	11	その他	9	22	35
その他	-	-	112	負債合計	18,170	35,225	40,015
				【純資産の部】			
				純資産合計	53,200	56,092	64,362
資産合計	71,370	91,317	104,378	負債及び純資産合計	71,370	91,317	104,378

②行政コスト計算書

資産形成につながらない行政サービスに要したコストと、それらの行政サービスの対価としての使用料・手数料などの収入を表したものです。現金主義会計では把握することができない減価償却費などの非現金コストも表しており、経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の純経常行政コストとして把握されます。

(単位: 百万円)

科目	一般会計等	全体会計	連結会計
経常費用	16,517	24,178	30,327
業務費用	8,766	9,748	12,309
人件費	3,557	3,589	4,354
物件費等・その他の業務費用	5,209	6,160	7,956
うち減価償却費	2,291	2,793	3,357
移転費用	7,750	14,430	18,018
補助金等	3,476	5,279	3,062
社会保障給付	3,282	9,150	14,922
他会計への繰出金	991	-	-
その他	1	-	34
経常収益	510	806	1,844
純経常行政コスト	16,006	23,373	28,483
臨時損失	6	6	6
臨時利益	2	2	4
純行政コスト	16,011	23,377	28,485

③純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に弥富市の純資産が、どのような財源や要因で増減したかを明らかにするものです。具体的には、貸借対照表の純資産の部を計算するものです。

(単位: 百万円)

科目	一般会計等	全体会計	連結会計
前年度末純資産残高	53,856	56,776	65,247
純行政コスト(△)	△ 16,011	△ 23,377	△ 28,485
財源	15,363	22,701	27,557
税収等	11,645	14,829	14,993
国県等補助金	3,718	7,871	12,564
本年度差額	△ 648	△ 677	△ 928
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	△ 9	△ 9	△ 9
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	49
その他	-	2	2
本年度純資産変動額	△ 656	△ 684	△ 885
本年度末純資産残高	53,200	56,092	64,362

④資金収支計算書

1年間の現金の流れを示すものです。現金の性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分されており、どのような活動に資金を必要としているかを表したものです。

(単位: 百万円)

科目	一般会計等	全体会計	連結会計
業務活動収支	1,407	1,607	1,817
投資活動収支	△ 1,605	△ 2,302	△ 3,175
財務活動収支	△ 64	287	748
本年度資金収支額	△ 262	△ 407	△ 609
前年度末資金残高	936	1,309	2,588
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	8
本年度末資金残高	674	902	1,987
本年度末歳計外現金残高	160	160	161
本年度末現金預金残高	834	1,062	2,148

弥富市における財務4表の連結範囲

一般会計等

一般会計
土地取得特別会計

全体会計

国民健康保険特別会計
後期高齢者医療特別会計
介護保険特別会計
下水道事業会計

連結会計

海部南部水道企業団 海部南部消防組合
海部地区環境事務組合 海部地区急病診療所組合
海部地区水防事務組合 海部南部広域事務組合
愛知県後期高齢者医療広域連合
愛知県市町村職員退職手当組合

市の資産と負債の状況

○市民1人当たりの資産と負債(令和5年度末現在人口: 43,578人)

	一般会計等	全体会計	連結会計
市民1人当たりの資産	1,637,748円	2,095,478円	2,395,189円
市民1人当たりの負債	416,949円	808,310円	918,249円

○純資産比率、実質純資産比率の状況

	一般会計等	全体会計	連結会計
純資産比率	74.5%	61.4%	61.7%
実質純資産比率	59.6%	25.5%	24.0%

(純資産比率、実質純資産比率)

純資産比率とは総資産のうち、純資産の占める割合を示します。負債は将来世代の負担と考えることができることから、将来世代と過去の世代との負担割合を示すことができます。純資産比率が高いほど、将来世代の負担軽減が図られているということがいえます。また、実質純資産比率は純資産比率の分母・分子からそれぞれインフラ資産を控除して算出します。厳密な意味での財務の安全性を示しており、この比率が高ければ高いほど良好な財務状態といえます。

(注) 財務4表の作成に当たっては、各項目の表示単位未満を四捨五入して表示しているため、内容と合計が一致しない場合があります。

令和5年度 弥富市財務4表の概要（一般会計等比較）

弥富市は平成28年度決算分から団体間の比較可能性や客観性の観点に基づき国から示された「統一モデル」により財務書類を作成しています。財務書類は、ストック情報（資産・負債・純資産の期末残高）を表す「①貸借対照表（バランスシート）」、フロー情報（期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動）を表す「②行政コスト計算書」、「③純資産変動計算書」及び「④資金収支計算書」の4つで構成されています。

弥富市における財務書類の作成範囲は一般会計等を基本として、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計の3つの特別会計と下水道事業会計を加えた全体会計、さらに全体会計に海部南部水道企業団など8つの関連団体を加えた連結会計となります。

弥富市における財務4表の連結範囲

連結会計

一般会計等

一般会計
土地取得特別会計

全体会計

国民健康保険特別会計
後期高齢者医療特別会計
介護保険特別会計
下水道事業会計

海部南部水道企業団 海部南部消防組合
海部地区環境事務組合 海部地区急病診療所組合
海部地区水防事務組合 海部南部広域事務組合
愛知県後期高齢者医療広域連合
愛知県市町村職員退職手当組合

①貸借対照表

貸借対照表は、基準日時点における財政状態（資産、負債及び純資産の残高）を表すものです。

資産は将来の収益を生み出すために保有する財産を、負債は将来の世代が返済する債務を、純資産はこれまでの世代によって獲得された余剰（又は欠損）の蓄積残高を表しています。

（単位：百万円）

借方	R5	R4	増減	貸方	R5	R4	増減
【資産の部】				【負債の部】			
有形固定資産	67,176	67,975	△ 799	固定負債	16,546	16,636	△ 90
事業用資産	40,404	39,980	424	地方債等	14,378	14,403	△ 25
インフラ資産	26,347	27,484	△ 1,137	退職手当引当金	2,167	2,223	△ 56
物品	425	511	△ 86	その他	-	9	-
無形固定資産	105	38	67	流動負債	1,624	1,614	10
投資及び出資金	111	111	0	1年内償還予定地方債等	1,171	1,174	△ 3
基金	2,965	2,695	270	未払金	0	1	△ 1
未収金等	179	183	△ 4	賞与等引当金	283	234	49
現金預金	834	1,104	△ 270	前受金・預り金	160	169	△ 9
棚卸資産	-	-	-	その他	9	36	△ 27
その他	-	-	-	負債合計	18,170	18,250	△ 80
資産合計	71,370	72,106	△ 736	【純資産の部】			
				純資産合計	53,200	53,856	△ 656
				負債及び純資産合計	71,370	72,106	△ 736

②行政コスト計算書

資産形成につながらない行政サービスに要したコストと、それらの行政サービスの対価としての使用料・手数料などの収入を表したものです。現金主義会計では把握することができない減価償却費などの非現金コストも表しており、経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の純経常行政コストとして把握されます。

（単位：百万円）

科目	R5	R4	増減
経常費用	16,517	16,377	140
業務費用	8,766	8,905	△ 139
人件費	3,557	3,588	△ 31
物件費等・その他の業務費用	5,209	5,317	△ 108
うち減価償却費	2,291	2,285	6
移転費用	7,750	7,472	278
補助金等	3,476	3,600	△ 124
社会保障給付	3,282	2,998	284
他会計への繰出金	991	874	117
その他	1	1	0
経常収益	510	523	△ 13
純経常行政コスト	16,006	15,854	152
臨時損失	6	82	△ 76
臨時利益	2	96	△ 94
純行政コスト	16,011	15,840	171

③純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に弥富市の純資産が、どのような財源や要因で増減したかを明らかにするものです。具体的には、貸借対照表の純資産の部を計算するものです。

（単位：百万円）

科目	R5	R4	増減
前年度末純資産残高	53,856	54,219	△ 363
純行政コスト（△）	△ 16,011	△ 15,840	△ 171
財源	15,363	15,475	△ 112
税収等	11,645	11,451	194
国県等補助金	3,718	4,024	△ 306
本年度差額	△ 648	△ 365	△ 283
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	△ 9	2	△ 11
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-
その他	-	-	-
本年度純資産変動額	△ 656	△ 363	△ 293
本年度末純資産残高	53,200	53,856	△ 656

④資金収支計算書

1年間の現金の流れを示すものです。現金の性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分されており、どのような活動に資金を必要としているかを表したものです。

（単位：百万円）

科目	R5	R4	増減
業務活動収支	1,407	1,583	△ 176
投資活動収支	△ 1,605	△ 1,753	148
財務活動収支	△ 64	308	△ 372
本年度資金収支額	△ 262	139	△ 401
前年度末資金残高	936	797	139
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-
本年度末資金残高	674	936	△ 262
本年度末歳計外現金残高	160	169	△ 9
本年度末現金預金残高	834	1,104	△ 270

（注）財務4表の作成に当たっては、各項目の表示単位未満を四捨五入して表示しているため、内容と合計が一致しない場合があります。

市の資産と負債の状況

○市民1人当たりの資産と負債（令和5年度末現在人口：43,578人、令和4年度末現在人口：43,777人）

	R5	R4	増減
市民1人当たりの資産	1,637,748円	1,647,131円	△ 9,383円
市民1人当たりの負債	416,949円	416,888円	61円

○純資産比率、実質純資産比率の状況

	R5	R4	増減
純資産比率	74.5%	74.7%	△ 0.1%
実質純資産比率	59.6%	59.1%	0.5%

（純資産比率、実質純資産比率）

純資産比率とは総資産のうち、純資産の占める割合を示します。負債は将来世代の負担と考えることができることから、将来世代と過去の世代との負担割合を示すことができます。純資産比率が高いほど、将来世代の負担軽減が図られているということがいえます。また、実質純資産比率は純資産比率の分母・分子からそれぞれインフラ資産を控除して算出します。厳密な意味での財務の安全性を示しており、この比率が高ければ高いほど良好な財務状態といえることができます。

令和5年度 弥富市財務4表の概要（全体会計比較）

弥富市は平成28年度決算分から団体間の比較可能性や客観性の観点に基づき国から示された「統一モデル」により財務書類を作成しています。財務書類は、ストック情報(資産・負債・純資産の期末残高)を表す「①貸借対照表(バランスシート)」、フロー情報(期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動)を表す「②行政コスト計算書」、「③純資産変動計算書」及び「④資金収支計算書」の4つで構成されています。

弥富市における財務書類の作成範囲は一般会計等を基本として、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計の3つの特別会計と下水道事業会計を加えた全体会計、さらに全体会計に海部南部水道企業団など8つの関連団体を加えた連結会計となります。

①貸借対照表

貸借対照表は、基準日時点における財政状態（資産、負債及び純資産の残高）を表すものです。

資産は将来の収益を生み出すために保有する財産を、負債は将来の世代が返済する債務を、純資産はこれまでの世代によって獲得された余剰（又は欠損）の蓄積残高を表しています。

(単位：百万円)

借方	R5	R4	増減	貸方	R5	R4	増減
【資産の部】				【負債の部】			
有形固定資産	85,514	85,758	△ 244	固定負債	33,128	32,778	350
事業用資産	40,404	39,980	424	地方債等	22,710	22,419	291
インフラ資産	44,063	44,726	△ 663	退職手当引当金	2,167	2,223	△ 56
物品	1,047	1,051	△ 4	その他	8,251	8,136	115
無形固定資産	881	829	52	流動負債	2,096	2,045	51
投資及び出資金	11	11	0	1年内償還予定地方債等	1,537	1,517	20
基金	3,276	3,017	259	未払金	89	85	4
未収金等	573	425	148	賞与等引当金	287	238	49
現金預金	1,062	1,478	△ 416	前受金・預り金	160	169	△ 9
棚卸資産	-	-	-	その他	22	36	△ 14
その他	-	82	-	負債合計	35,225	34,823	402
資産合計	91,317	91,599	△ 282	【純資産の部】	0	0	0
				純資産合計	56,092	56,776	△ 684
				負債及び純資産合計	91,317	91,599	△ 282

②行政コスト計算書

資産形成につながらない行政サービスに要したコストと、それらの行政サービスの対価としての使用料・手数料などの収入を表したものです。現金主義会計では把握することができない減価償却費などの非現金コストも表しており、経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の純経常行政コストとして把握されます。

(単位：百万円)

科目	R5	R4	増減
経常費用	24,178	23,862	316
業務費用	9,748	9,894	△ 146
人件費	3,589	3,620	△ 31
物件費等・その他の業務費用	6,160	6,274	△ 114
うち減価償却費	2,793	2,786	7
移転費用	14,430	13,968	462
補助金等	5,279	5,249	30
社会保障給付	9,150	8,718	432
他会計への繰出金	-	-	-
その他	1	1	0
経常収益	806	817	△ 11
純経常行政コスト	23,373	23,045	328
臨時損失	6	82	△ 76
臨時利益	2	96	△ 94
純行政コスト	23,377	23,031	346

③純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に弥富市の純資産が、どのような財源や要因で増減したかを明らかにするものです。具体的には、貸借対照表の純資産の部を計算するものです。

(単位：百万円)

科目	R5	R4	増減
前年度末純資産残高	56,776	57,125	△ 349
純行政コスト(△)	△ 23,377	△ 23,031	△ 346
財源	22,701	22,678	23
税収等	14,829	14,569	260
国県等補助金	7,871	8,109	△ 238
本年度差額	△ 677	△ 352	△ 325
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	△ 9	2	△ 11
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-
その他	2	2	0
本年度純資産変動額	△ 684	△ 349	△ 335
本年度末純資産残高	56,092	56,776	△ 684

(注) 財務4表の作成に当たっては、各項目の表示単位未満を四捨五入して表示しているため、内容と合計が一致しない場合があります。

弥富市における財務4表の連結範囲

連結会計

一般会計等

一般会計
土地取得特別会計

全体会計

国民健康保険特別会計
後期高齢者医療特別会計
介護保険特別会計
下水道事業会計

海部南部水道企業団 海部南部消防組合
海部地区環境事務組合 海部地区急病診療所組合
海部地区水防事務組合 海部南部広域事務組合
愛知県後期高齢者医療広域連合
愛知県市町村職員退職手当組合

市の資産と負債の状況

○市民1人当たりの資産と負債(令和5年度末現在人口：43,578人、令和4年度末現在人口：43,777人)

	R5	R4	増減
市民1人当たりの資産	2,095,478円	2,092,397円	3,081円
市民1人当たりの負債	808,310円	795,464円	12,846円

○純資産比率、実質純資産比率の状況

	R5	R4	増減
純資産比率	61.4%	62.0%	△ 0.6%
実質純資産比率	25.5%	25.7%	△ 0.2%

(純資産比率、実質純資産比率)

純資産比率とは総資産のうち、純資産の占める割合を示します。負債は将来世代の負担と考えることができることから、将来世代と過去の世代との負担割合を示すことができます。純資産比率が高いほど、将来世代の負担軽減が図られているということがいえます。また、実質純資産比率は純資産比率の分母・分子からそれぞれインフラ資産を控除して算出します。厳密な意味での財務の安全性を示しており、この比率が高ければ高いほど良好な財務状態といえます。

④資金収支計算書

1年間の現金の流れを示すものです。現金の性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分されており、どのような活動に資金を必要としているかを表したものです。

(単位：百万円)

科目	R5	R4	増減
業務活動収支	1,607	1,882	△ 275
投資活動収支	△ 2,302	△ 2,256	△ 46
財務活動収支	287	464	△ 177
本年度資金収支額	△ 407	90	△ 497
前年度末資金残高	1,309	1,219	90
比例連結割合変更に伴う差額	-	-	-
本年度末資金残高	902	1,309	△ 407
本年度末歳計外現金残高	160	169	△ 9
本年度末現金預金残高	1,062	1,478	△ 416

令和5年度 弥富市財務4表の概要（連結会計比較）

弥富市は平成28年度決算分から団体間の比較可能性や客観性の観点に基づき国から示された「統一モデル」により財務書類を作成しています。財務書類は、ストック情報(資産・負債・純資産の期末残高)を表す「①貸借対照表(バランスシート)」、フロー情報(期中の収益・費用及び純資産の内部構成の変動)を表す「②行政コスト計算書」、「③純資産変動計算書」及び「④資金収支計算書」の4つで構成されています。

弥富市における財務書類の作成範囲は一般会計等を基本として、国民健康保険特別会計、後期高齢者医療特別会計、介護保険特別会計の3つの特別会計と下水道事業会計を加えた全体会計、さらに全体会計に海部南部水道企業団など8つの関連団体を加えた連結会計となります。

①貸借対照表

貸借対照表は、基準日時点における財政状態（資産、負債及び純資産の残高）を表すものです。

資産は将来の収益を生み出すために保有する財産を、負債は将来の世代が返済する債務を、純資産はこれまでの世代によって獲得された余剰（又は欠損）の蓄積残高を表しています。

(単位：百万円)

借方	R5	R4	増減	貸方	R5	R4	増減
【資産の部】				【負債の部】			
有形固定資産	95,831	95,797	34	固定負債	37,531	36,746	785
事業用資産	42,210	41,345	865	地方債等	23,923	23,162	761
インフラ資産	51,721	52,337	△ 616	退職手当引当金	2,867	2,903	△ 36
物品	1,899	2,114	△ 215	その他	10,741	10,681	60
無形固定資産	885	832	53	流動負債	2,485	2,471	14
投資及び出資金	11	11	0	1年内償還予定地方債等	1,620	1,608	12
基金	4,599	4,330	269	未払金	334	359	△ 25
未収金等	781	645	136	賞与等引当金	333	281	52
現金預金	2,148	2,758	△ 610	前受金・預り金	161	173	△ 12
棚卸資産	11	10	1	その他	35	50	△ 15
その他	112	82	30	負債合計	40,015	39,217	798
				【純資産の部】			
資産合計	104,378	104,464	△ 86	純資産合計	64,362	65,247	△ 885
				負債及び純資産合計	104,378	104,464	△ 86

②行政コスト計算書

資産形成につながらない行政サービスに要したコストと、それらの行政サービスの対価としての使用料・手数料などの収入を表したものです。現金主義会計では把握することができない減価償却費などの非現金コストも表しており、経常費用合計から経常収益合計を差し引いたものが、当該年度の純経常行政コストとして把握されます。

(単位：百万円)

科目	R5	R4	増減
経常費用	30,327	29,522	805
業務費用	12,309	12,365	△ 56
人件費	4,354	4,319	35
物件費等・その他の業務費用	7,956	8,046	△ 90
うち減価償却費	3,357	3,337	20
移転費用	18,018	17,156	862
補助金等	3,062	3,131	△ 69
社会保障給付	14,922	13,996	926
他会計への繰出金	-	-	-
その他	34	30	4
経常収益	1,844	1,875	△ 31
純経常行政コスト	28,483	27,646	837
臨時損失	6	83	△ 77
臨時利益	4	97	△ 93
純行政コスト	28,485	27,632	853

③純資産変動計算書

純資産変動計算書は、1年間に弥富市の純資産が、どのような財源や要因で増減したかを明らかにするものです。具体的には、貸借対照表の純資産の部を計算するものです。

(単位：百万円)

科目	R5	R4	増減
前年度末純資産残高	65,247	65,654	△ 407
純行政コスト(△)	△ 28,485	△ 27,632	△ 853
財源	27,557	27,221	336
税収等	14,993	14,736	257
国県等補助金	12,564	12,485	79
本年度差額	△ 928	△ 411	△ 517
資産評価差額	-	-	-
無償所管換等	△ 9	2	△ 11
比例連結割合変更に伴う差額	49	2	47
その他	2	2	0
本年度純資産変動額	△ 885	△ 406	△ 479
本年度末純資産残高	64,362	65,247	△ 885

(注) 財務4表の作成に当たっては、各項目の表示単位未満を四捨五入して表示しているため、内容と合計が一致しない場合があります。

弥富市における財務4表の連結範囲

連結会計

一般会計等

一般会計
土地取得特別会計

全体会計

国民健康保険特別会計
後期高齢者医療特別会計
介護保険特別会計
下水道事業会計

海部南部水道企業団 海部南部消防組合
海部地区環境事務組合 海部地区急病診療所組合
海部地区水防事務組合 海部南部広域事務組合
愛知県後期高齢者医療広域連合
愛知県市町村職員退職手当組合

市の資産と負債の状況

○市民1人当たりの資産と負債(令和5年度末現在人口：43,578人、令和4年度末現在人口：43,777人)

	R5	R4	増減
市民1人当たりの資産	2,395,189円	2,386,277円	8,912円
市民1人当たりの負債	918,249円	895,828円	22,421円

○純資産比率、実質純資産比率の状況

	R5	R4	増減
純資産比率	61.7%	62.5%	△ 0.8%
実質純資産比率	24.0%	24.8%	△ 0.8%

(純資産比率、実質純資産比率)

純資産比率とは総資産のうち、純資産の占める割合を示します。負債は将来世代の負担と考えることができることから、将来世代と過去の世代との負担割合を示すことができます。純資産比率が高いほど、将来世代の負担軽減が図られているということがいえます。また、実質純資産比率は純資産比率の分母・分子からそれぞれインフラ資産を控除して算出します。厳密な意味での財務の安全性を示しており、この比率が高ければ高いほど良好な財務状態といえます。

④資金収支計算書

1年間の現金の流れを示すものです。現金の性質に応じて、業務活動収支、投資活動収支、財務活動収支に区分されており、どのような活動に資金を必要としているかを表したものです。

(単位：百万円)

科目	R5	R4	増減
業務活動収支	1,817	2,351	△ 534
投資活動収支	△ 3,175	△ 2,556	△ 619
財務活動収支	748	432	316
本年度資金収支額	△ 609	227	△ 836
前年度末資金残高	2,588	2,384	204
比例連結割合変更に伴う差額	8	△ 22	30
本年度末資金残高	1,987	2,588	△ 601
本年度末歳計外現金残高	161	170	△ 9
本年度末現金預金残高	2,148	2,758	△ 610